

広島県公立高校入試徹底分析【国語】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	50点
問題構成	<p>文学的文章、説明的文章、古典の大問3題構成になっていた。</p> <p>大問1は文学的文章の読解問題で、配点は21点分。（出典：村上雅郁「きみの話を聞かせてくれよ」）そのうち内容読解以外の問題は、漢字の問題（書き）が3点分出た。</p> <p>大問2は説明的文章の読解問題で、配点は20点分。（出典：原研哉「低空飛行」と国立環境研究所のウェブページの記事の一部より）</p> <p>そのうち内容読解以外の問題は、漢字の問題（読み）が3点分出た。</p> <p>大問3は古文の読解問題で、配点は9点分。（出典：「泊宿筆話」）</p> <p>そのうち内容読解以外の問題は、仮名遣いの問題が1点分出た。</p> <p>受験者平均点は、広島県教育委員会の発表によると、昨年度の29.5点（正答率59%）に対して、本年度は21.4点（正答率42.8%）に大きく下がったため、単純な経年比較はできないものの、難易度は上がったといえる。</p>		

	令和7年度(2025)	令和6年度(2024)	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)	令和3年度(2021)
問題量(A4で)	12ページ分	10ページ分	10ページ分	13ページ分	14ページ分
小問数	23問	21問	23問	20問	21問
論述問題の数	11問	5問	7問	9問	10問
論述問題配点	31点	22点	29点	36点	33点
受験者平均点	21.4点	29.5点	26.2点	24.6点	21.5点

※広島県教育委員会の発表より

【出題の傾向と対策】

① 記述問題が全体の問題数に占める割合が大きい。しかも、その配点割合は、全体のおよそ6割（50点満点中31点分）に及ぶ。また、出題形式として、空欄に当てはまる内容を書かせる問題が多く、文脈に即した適切な表現力が試される傾向にある。なお、2023年度まで出題されていた指定字数200字ほどの条件作文の問題は、2024年度以降から出題されなくなった。

- 4 心情説明の問題（35字以内／受験者正答率 29.0%・部分正答率 23.4%）
- 5 理由（心情）説明の問題（30字以内／受験者正答率 10.2%・部分正答率 48.9%）
- 6 I 空欄補充型の心情説明の問題（30字以内／受験者正答率 9.4%・部分正答率 52.7%）
- 6 II 空欄補充型の心情説明の問題（45字以内／受験者正答率 22.1%・部分正答率 44.2%）
- 6 III 空欄補充型の心情説明の問題（45字以内／受験者正答率 16.3%・部分正答率 46.6%）
- 3 指示語の内容説明の問題（40字以内／受験者正答率 9.4%・部分正答率 27.5%）
- 5 空欄補充型の内容説明の問題（80字以内／受験者正答率 9.3%・部分正答率 53.6%）
- 2 I 空欄補充型の内容説明の問題（25字以内／受験者正答率 7.7%・部分正答率 19.1%）
- 2 II 空欄補充型の内容説明の問題（25字以内／受験者正答率 12.7%・部分正答率 23.1%）
- 2 III 空欄補充型の内容説明の問題（15字以内／受験者正答率 30.6%・部分正答率 7.3%）
- 2 IV 空欄補充型の内容説明の問題（15字以内／受験者正答率 18.5%・部分正答率 11.4%）

【対策】日ごろの学習において、以下の手順をくり返し練習しておきましょう。

- (1) 問題が求めているものを確認する
- (2) 本文中から答えやヒントが書かれているところを探す
- (3) 本文から集めてきた語句を整理して答えに合う文をまとめる
- (4) 答え合わせをして、不足していた内容や誤解していたことは何かを確認して書き直す。

- ② 文章内容について話し合った「生徒の会話」や文章内容に関連する「記事」・「ノート」などの資料が与えられ、文脈や論理展開、あるいは目的に即して内容を的確に捉えることを求める問題が各大問に置かれる。

一 6

二 6

三 2

6 国語の授業で、次に【記憶の一部】を読みました。あとの【一】は、その他の文で、【記憶の一部】の話を読みましたことをまとめてください。

（記事の一部）

「事の一部」で述べられていましたのは、本文の「のべて」ではなく、わたしたちがどうして「のべて」で述べられるのか、それが何を意味するのか、その状況を詳しく説いていました。一方で、本文は、その他の文で、【記憶の一部】の話を読みましたことをまとめていました。

（国語検査実験用クエスチョン）

6 国語の授業で、次に【記憶の一部】を読みました。あとの【一】は、その他の文で、【記憶の一部】の話を読みましたことをまとめてください。

（記事の一部）

「事の一部」で述べられていましたのは、本文の「のべて」ではなく、わたしたちがどうして「のべて」で述べられるのか、それが何を意味するのか、その状況を詳しく説いていました。一方で、本文は、その他の文で、【記憶の一部】の話を読みましたことをまとめていました。

6 国語の授業で、次に【記憶の一部】を読みました。あとの【一】は、その他の文で、【記憶の一部】の話を読みましたことをまとめてください。

（記事の一部）

「事の一部」で述べられていましたのは、本文の「のべて」ではなく、わたしたちがどうして「のべて」で述べられるのか、それが何を意味するのか、その状況を詳しく説いていました。一方で、本文は、その他の文で、【記憶の一部】の話を読みましたことをまとめていました。

6 国語の授業で、次に【記憶の一部】を読みました。あとの【一】は、その他の文で、【記憶の一部】の話を読みましたことをまとめてください。

（記事の一部）

「事の一部」で述べられていましたのは、本文の「のべて」ではなく、わたしたちがどうして「のべて」で述べられるのか、それが何を意味するのか、その状況を詳しく説いていました。一方で、本文は、その他の文で、【記憶の一部】の話を読みましたことをまとめていました。

2 ついづをはじむのは、心についての問題の範囲に、「生徒が原稿と合いました」。次の「生徒の会話」はそのときのものです。これ読み、その文脈で、それをこれまでの表現を、現代の言葉を用いて、それが五五文内に書きなさい。

吉田：杏子、IVにこゝにはまる大切な表現を、現代の言葉を用いて、そ

【対策】過去問を使い、本文の内容と文脈に即して空欄に合う適切な表現を補う練習をしましょう。

- ③ 基礎的・基本的な知識をみる問題は、平均してどれも受検者正答率が高く、また知識問題すべての配点を合わせると11点分（配点割合は全体の約20%に当たる）にもなるため、確実に得点することが求められる。

一 1 漢字の書き取り（配点 各1点／受検者正答率 ② 85.7% ① 88.6% ④ 74.7%）

*すべて訓読みの漢字が出された。⑦ 照れる ① 縮こまる ④ 軽やかに

2 文章中の空欄に当てはまる慣用句を補う（配点2点／受検者正答率 82.6%）

*慣用句の出題は2024年度でも見られた。

二 1 漢字の読み取り（配点 各1点／受検者正答率 ② 56.7% ① 61.1% ④ 49.7%）

*漢字の読み取り問題は一般的に正答率が高い傾向にあるが、

ちなみに、出題されたのは「② 災厄」「④ 潮流」「④ 称揚」で、

決して読み方が難しい漢字とはいえないものばかりであった。

2 文脈に即して空欄に当てはまる接続詞を補う（配点2点／受検者正答率 84.8%）

*接続詞を補う問題は例年出されている。

三 1 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いで書く（配点1点／受検者正答率 89.6%）

*「乞はれて」の平仮名部分だけを現代仮名遣いで書くという指示だったので、

正解は「われて」。「こわれて」と答えて失点した受験生も少なからずいたはずである。

仮名遣いの問題については、問題の指示をよく読んで答えることを心がけましょう。

【対策】小中学校で習う常用漢字を覚える学習を続けましょう。

また、接続詞を補う問題を数多く練習し、文脈に即して適切な接続詞を使える力を育てましょう。

《①で取り上げた記述問題の解答（※解答は県発表の標準解答に拠る）》

一 4 《例》早緑が、自分とけんかをしたことを後悔して、泣いていたということ。（32字）

5 《例》泣かないと思っていた六花を泣かせてしまい、困惑したから。（28字）

6 I : 《例》部活のぐちを聞いてもらい、なぐさめてもらってすっきりしたい（29字）

II : 《例》部活の練習についていけず、つらい思いをして家でめそめそ泣いていた自分が責められている（42字）

III : 《例》自分のことでいっぱいいっぱいで、早緑の気持ちを考えず言った言葉で早緑をきづつけていた（42字）

二 3 《例》刻々と変化する世界の動向を正確に捉えた、質の良いメールマガジンやニュース（37字）

5 《例》脳から発令し続けられる、その個体が生きながらえていくための「適正な動作」に従い、身体を駆使して活動しながら、敏捷に食物を摂取し、自らを維持存続させていく。（76字）

三 2 I : 《例》自分が納得するまで、時間をかけて何回も書きかえる（24字）

II : 《例》書く内容にをすぐに思いつき、ただちに完成させる（22字）

III : 《例》間違いがほとんどなかった（12字）

IV : 《例》考えが足りないことがある（12字）